

新指導員研修会の報告

名古屋支部 岡島 栄子

内容：バッタの研修会

日時：10月2日(土) 10:00~12:00

場所：守山スポーツセンター(座学)

小幡緑地本園(野外実習)

公園草地と竜巻池周辺

講師：水野 俊彦氏

(知多支部・名和昆虫博物館研究員)

参加者：10名。そのうち4名が新指導員。

水野先生は県内のいろいろなところで昆虫観察会の講師をされているとのこと。守山にも以前からかかわって来られた。15年ほど前から開発が進んで環境が変わったと残念そうに話された。

今回パワーポイントでの説明予定が機材環境が整わず、口頭とボード板書での説明となった。早口が特徴とご本人は言われたが、その通りだった。聞き漏らした言葉を考えているうちに解説は次々に進んでいった。

1. 座学

ア. 直翅目の分類説明

直翅目は、羽を広げると、筋が真っすぐになっている。バッタ目、ゴキブリ目、カマキリ目、ナナフシ目など。

今日のテーマであるバッタ目は、さらに①バッタ亜目と、コオロギ亜目に分かれる。コオロギ亜目は②コオロギ上科と③キリギリス上科に分かれる。

よく聞く虫の名前の分類だが、ここら辺になると理解が難しくなってくる。

イ. バッタ目全体の特徴は

- ・体が円筒形
- ・口の下に顎がある。
- ・後脚の腿が太い
- ・羽を広げて飛ぶ等

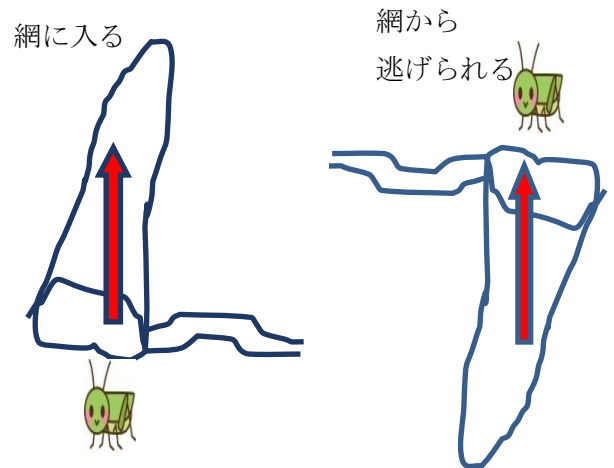
ウ. ①②③の特徴

①バッタ亜目：脚の棘と翅を擦り合わせて鳴く。耳は腹の辺りにある。

②③コオロギ亜科：翅を擦り合わせて鳴く。耳は前足にある。ひげが長い。等々

2. 野外実習

バッタを採集しながら基本的な網の使い方やバッタの持ち方などを教わった。



最後に、捕まえたバッタの名前と特徴を解説して頂いた。ショウリョウバッタ、クビキリギリス、トノサマバッタ、クサキリ、コガネイナゴ等。クルマバッタの翅を広げたら、黒い弧状の模様が美しかった。

3. 振り返って

私は植物観察の機会が多く、昆虫は二の次になることが多い。バッタに特化した研修は有難かった。バッタの分類や特徴などの知識と網の使い方が為になった。

水野先生は、虫を見つけたり捕まえたりするのも巧いが、園内で虫取りをしている子どもにも直ぐに吸い寄せられ、昆虫の話に夢中になる。いつまでも少年の心を持ち続けている先生に出会えたことも楽しい研修の一コマだった。